

あいち農産物生産流通レポート

2025年10月号

ページ

◎ マンスリーレポート

- ・ 冬季でも開花が遅れず計画的な出荷が可能なスプレーギク新品種「スプレーアイチ秋2号」を開発 (農業総合試験場) 1

◎ 地域トピックス

- ・ 『日進グリーンセンター ni+co(ニコ)』がオープン (尾張農林水産事務所) 2

◎ 東京レポート

- ・ 全国規模のプレミアムフードの展示会が開催されました (東京事務所) 3
- ・ 葬儀用花きの新たなトレンド (東京事務所) 4

◎ 東京都中央卸売市場における10月の主要な愛知産青果物の動向 (東京事務所) 5

◎ 花 き

- ・ 切花・鉢花の10月の見通し(県内市場) (食育消費流通課) 7

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

冬季でも開花が遅れず計画的な出荷が可能なスプレーギク新品种

「スプレーアイチ秋2号」を開発

農業総合試験場

愛知県のスプレーギク生産量は全国第1位で、その主な産地は田原市、豊川市です。キクは、通常秋に開花しますが、品種改良と栽培技術の開発により、一年中開花させ、出荷しています。品種は、主に7月から9月にかけて出荷する夏秋系品種と、10月から6月にかけて出荷する秋系品種があります。

今回、白色の秋系品種「スプレーアイチ秋2号」を開発したので紹介します。

1 「スプレーアイチ秋2号」開発の経緯

スプレーギク栽培では、冬季に温風暖房機などで加温し、出荷規格に適合した切り花の計画的な出荷を実現しています。しかし、近年は燃油の高騰が続いており、暖房にかかるコストの増加が、農家経営を圧迫しています。そのため生産者からは、暖房の設定温度を下げても出荷規格どおりの切り花長が確保でき、開花が遅れないといった特性を持つ新品种が求められていました。

愛知県農業総合試験場東三河農業研究所では、これまでに、草姿、花形が良い「スプレーアイチ秋1号」（ピンク色）を育成しました。しかし、最も需要のある白色の品種の育成には至っていませんでした。そこで、寒い時期でも品質が高く生産者の要望に応える白色の秋系品種の育成に取り組みました。



「スプレーアイチ秋2号」

2 「スプレーアイチ秋2号」の特徴

「スプレーアイチ秋2号」は、寒さによる生育及び開花の遅れや障害の発生が少ない品種です。そのため、厳寒期を含む10月から6月の長期間に渡って、品質の高い切り花を安定して出荷できます。また、開花揃いが良いことから、計画的な生産及び出荷が可能です。さらに、生産者にとっては茎の下部から伸びてくる側枝の数が少なく、収穫や調整がしやすいため、出荷作業の労力が軽減できるというメリットがあります。花弁は純白で、濃緑の葉とのコントラストが鮮やかな美しい花です。鑑賞期間は、従来の秋系スプレーギク品種と同等であり、2週間から3週間程度楽しむことができます。これらの優れた性質を備えた本品種は、冬に出荷する白色スプレーギクの主力品種として普及が期待されます。

『日進グリーンセンター ni+co (ニコ)』がオープン

尾張農林水産事務所

2025 年 6 月 12 日(木)に J A あいち尾東の産直施設『日進グリーンセンター ni+co (ニコ)』がオープンしました。地元の新鮮な農産物をはじめ、その場で精米する鮮度抜群な地元米、肥料や農機具などの農業用資材も豊富に取り揃えています。

1 長年地域で親しまれてきた施設を建て替え

日進グリーンセンター ni+co (ニコ) は、長年地域で親しまれてきた日進園芸センターを建て替えたもので、店舗の広さは今までの4倍以上となりました。愛称の ni+co (ニコ) には、「日進(ni)のコミュニティ(co)〜人・野菜が集まる日進のコミュニティとなるように〜」との意味が込められています。

地産地消の拠り所として、農業者と消費者が交わる青空朝市のような、笑顔が絶えない身近で通い続けたい店舗を目指しています。



2 もっと便利に、もっと楽しく

リニューアル後の店舗には、お好きな銘柄をその場で精米する「コメ米ショップ」が登場しました。1kg から精米でき、分づき米の種類が好みに応じて選べるので、食べ比べもおすすめです。また、切花コーナーを拡大。地元農家から届いた旬の花々が並びます。

さらに、園芸資材の販売スペースも拡大し、苗や肥料、農機具など、資材の種類が豊富になりました。



3 ここだけの味、ここだけの品

地元の新鮮な食材を使ったオリジナル商品も多数取り揃えています。ケール×芽キャベツで誕生した地元の特産品プチヴェールの外葉のしぼり汁を発酵させて作ったプチヴェール酢は、リンゴ味ベースでクセがなく、すっきりさわやか。水やソーダで割るのもおすすめです。プチヴェールの粉末を練りこんだバームクーヘンには、J A あいち尾東のマスコットキャラクター、いなほちゃんとおにぎりくんが焼印されています。そのほか、J A あいち尾東のお米、玄米を使用したポンせんべいやパスタ、地元農家の旬の果物で作ったジャムやドライフルーツなど、多彩な商品が揃っています。



これまで年配の方を中心に親しまれてきた施設ですが、今回のリニューアルにより若い世代にも足を運んでもらえるようになりました。世代を問わず誰もが気軽に立ち寄れる場所として、地域の交流の場としてもますます活気づいています。

全国規模のプレミアムフードの展示会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年9月3日(水)から5日(金)に東京ビッグサイトで「第38回グルメショー秋」(主催：ビジネスガイド社)が開催されましたので、その概要を紹介します。

1 グルメショーとは

新しいフードマーケットを切り拓くプレミアムフードの展示会で、既存の食品流通バイヤーや新規参入の異業種バイヤーをターゲットとして春と秋の年2回開催されています。会場内は主に次の5つのエリアで構成されていました。

エリア名	内容
ローカルフード展	各地域で育まれたご当地グルメ、農畜産物、加工食品、飲料、スイーツなどの展示エリア
スタイリッシュフード展	商品の良さだけでなくデザイン、パッケージにもこだわった展示エリア
ウェルビーフード展	プラントベース食品やフードロス削減、健康的な食材など、健康や環境課題に対応した展示エリア
ワールドフード展	本場のワールドグルメの展示エリア
ソリューション展	ダイニングを「豊かに便利に」、「快適に楽しく」するためのアイテム、店舗システム、ツールなどの展示エリア

上記の他、生産者の想いを伝える「ファーマーズプライド展」、個性豊かな商品を展示した「クラフトドリンク&リカー展」、ホームパーティーを演出するフードを集めた「パーティーフード展」などの企画エリアも設けられていました。

2 会場で際立った“地域性を出した展示”

会場ではローカルフード展が最も広く3分の1程度を占めており、同エリアでは地域の商工会が地元産品を展示するブースが半数程度ありました。また、自治体の出展エリアには、高知市と「れんけいこうち広域都市圏」(事務局：高知市)による「こうちプレミアム」があり、高知県内の15市町村31企業が一堂に会して選りすぐりの逸品を展示していました。

本県企業は、ローカルフード展に2社(八丁味噌、ラーメン)、ウェルビーフード展に1社(豆腐関連)が出展していました。八丁味噌のブースでは愛知県の気候風土に根差した独自の味噌であること、ラーメンと豆腐関連のブースでは地元農作物(小麦、大豆)を使用した商品であることなど、愛知らしさを活かした展示が行われていました。



「こうちプレミアム」エリアの様子



本県企業の出展ブース例
(「愛知県碧南市のご当地ラーメン」を掲示)

今回のような全国規模の展示会を通じて、本県産の農産物を使った加工品がより多くの人に認知されることは、本県農業の活性化の一助になると思われます。

葬儀用花きの新たなトレンド

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年9月10日（水）から11日（木）にかけて、有明GYM-E Xで「第11回エンディング産業展」（主催：東京博善株式会社）が開催されました。

葬儀祭壇や供花、墓花など終活（エンディング）産業で用いられる生花に関連した出展を取材しましたので、その概要を紹介します。

1 消費者ニーズに寄り添う生花祭壇

祭壇の展示会場では、株式会社フォーシーズンズ（神奈川県）がオリジナルデザインの生花祭壇を展示していました。祭壇は白色と紫色を基調として、カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、バラなどで装飾し、故人の好みや人柄、故人への想いに寄り添った自由な祭壇になっていました。一般葬に加えて、一日葬、家族葬と葬儀の形式が多様化する中、今後、このような自由な形の生花祭壇がトレンドになると感じました。



自由なデザインの生花祭壇



祭壇のラインには、白いバラとカーネーションを使用

2 世界中から集荷される仏花、墓花

葬儀用花材の展示会場では、株式会社ジャパンプランツ（岐阜県）が仏花、墓花の花材を出展していました。同社の仏花、墓花は主に量販店に向けて販売され、スプレーギク、カーネーション、リンドウ、スターチスなど多様な種類が使われています。

担当者からは「東北や北海道など、他の国内産地に比べて夏季が冷涼な産地でも、近年は夏の暑さで品質が不安定になることがある。東南アジアの産地では、コロナ禍による生産停止を機に労働者が国外に流出してしまい、品質が不安定になった。」と近年、品質の安定した花き産地を確保することが難しくなっている実情が説明されました。

今後は、品質の安定した花材を消費者に提供するため、国内外問わず、季節ごとに、世界中から多様な品種の切り花が仏花、墓花として広く流通する可能性があります。

エンディング産業に用いられる生花は、種類、色、丈など、今後さらに多様化していくことが予想されます。輪菊だけでなく、あらゆる種類の花きが、エンディング産業の現場で使用される可能性があることを当グループと産地とが情報共有をすることによって、需要とのマッチングに繋がることが期待されます。

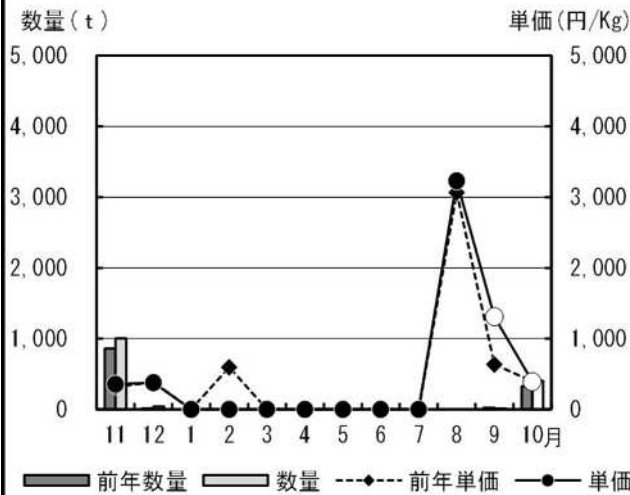
東京都中央卸売市場における10月の主要な愛知産青果物の動向

1 10月の見通し

品目名 かき

区分 実績等		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2020年	8,716	290	和歌山	54%	柿は全国的に作付面積が減少しており、引き合いが強まっている品目である。主産地が和歌山、奈良、福岡と西日本の産地が多い中、東京に近い愛知産の「次郎柿」には期待している。
	2021年	8,003	305	奈良	25%	
	2022年	10,271	272	新潟	7%	
	2023年	9,051	330			
	2024年	7,770	360			
	5ヵ年平均	8,762	311			
2025年見通し		8,300	360			

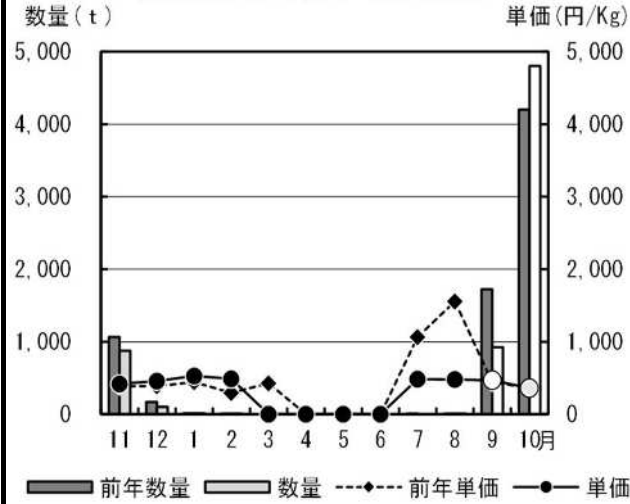
愛知産の動き



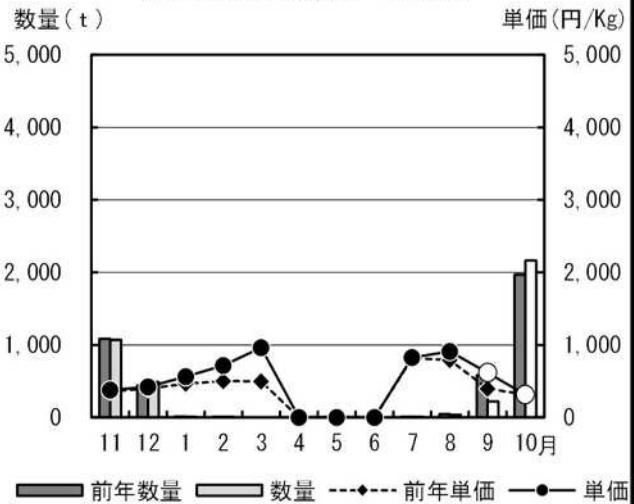
産地概況

前年は高温に加えてカメムシ被害が多く入荷量がかかなり減少した。現状、各産地カメムシ被害は少ない。
 本県「次郎柿」は高温と乾燥のため日焼け果が発生している。カイガラムシの発生が多いが、入荷量は少なかった前年を大幅に上回る見込み。
 「筆柿」は10月に入荷ピークを迎え、入荷量は前年をかなり上回る見込み。
 和歌山、奈良の「利根早生」と「平核無」は10月以降に入荷ピークとなり、サイズはLから2L中心となる見込み。

競合産地の動き (和歌山)



競合産地の動き (奈良)



2 入荷量・価格の動き

品目名 ぎんなん

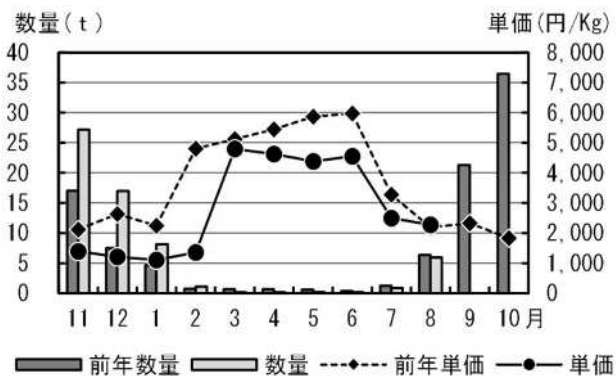
前年上位3産地(%)

愛知 46%

静岡 10%

福岡 8%

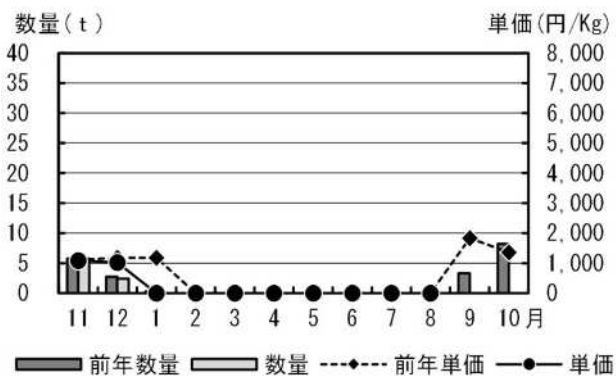
愛知産の動き



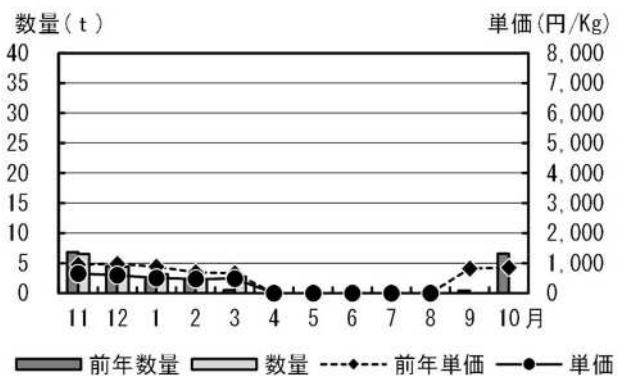
産地概況

主要産地の入荷量は、本県、競合産地の静岡、福岡のいずれも前年並と見込まれる。
品種については、本県及び競合産地のいずれも10月に入ると「藤九郎」の入荷が始まり、「久寿」と並行して入荷する。本県の「藤九郎」は着果量が多いため小玉傾向で、業務需要の多い3Lサイズが前年よりも少なくなる見込み。

競合産地の動き（静岡）



競合産地の動き（福岡）



切 花 ・ 鉢 花 の 1 0 月 の 見 通 し

切 花（愛知名港花き地方卸売市場 10月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2020年		1, 2 3 0	5 0	
		2021年		1, 2 5 0	5 5	
		2022年		9 9 4	6 6	
		2023年		1, 0 2 5	7 1	
		2024年		9 4 2	6 8	
	5ヵ年平均		1, 0 8 8	6 1		
		2025年見通し		1, 0 0 0	6 5	
概要	愛知、長野を中心に入荷。長野産は中旬頃には出荷も終了し、愛知産も出荷量は多くないが、中旬以降少しづつ増えてくる見込み。一般需要は少ない時期だけに、葬儀需要の動きで相場は変動しやすい見込み。					
小 ぎ く	実績	2020年		6 2 1	3 8	
		2021年		6 3 0	3 8	
		2022年		6 4 8	4 8	
		2023年		5 3 2	4 2	
		2024年		4 3 7	3 5	
	5ヵ年平均		5 7 4	4 0		
		2025年見通し		4 5 0	3 5	
概要	愛知、長野を中心に入荷。7月からの暑さ、干ばつの影響もあり、品質面、入荷量ともに不安定。中旬以降少しづつ品質は回復してくるが、入荷量自体は月を通して少ない見込み。					
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年		9 3 8	4 6	
		2021年		1, 1 0 0	4 5	
		2022年		9 9 4	5 4	
		2023年		9 3 8	6 0	
		2024年		1, 0 4 9	4 3	
	5ヵ年平均		1, 0 0 4	4 9		
		2025年見通し		1, 0 0 0	4 0	
概要	長野、愛知、輸入を中心に入荷。長野産は終盤に近付き、愛知産はスタートは早い が、例年に比べバラバラと出荷が続く見込み。 輸入品はハロウィン需要に引っ張られるのと便の不順等で入荷は不安定。					
か す み そ う	実績	2020年		1 0 2	1 3 3	
		2021年		9 0	1 4 0	
		2022年		1 0 3	1 7 0	
		2023年		8 6	1 9 1	
		2024年		1 3 1	1 2 6	
	5ヵ年平均		1 0 2	1 5 0		
		2025年見通し		1 1 0	1 3 0	
概要	福島、長野、熊本からの入荷。気温の低下に伴い、高冷地産は減少するが、中下旬から和歌山産、高知産の出荷も始まる。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2020年	2 5 6	1 8 2	
		2021年	2 8 0	1 7 5	
		2022年	2 1 3	2 0 9	
		2023年	2 2 7	2 2 5	
		2024年	2 0 6	1 9 9	
	5 カ年平均		2 3 6	1 9 6	
	2025年見通し		2 2 0	2 0 0	
	概要	オリエンタルユリは新潟、埼玉、岐阜、愛知、高知、宮崎、北海道からの入荷で中下旬から西南暖地の出荷もまとまってくる見込み。LA、鉄砲ユリは中旬以降西南暖地産が増えてくる。			
洋らん	実績	2020年	2 9 8	1 0 0	
		2021年	3 5 0	8 0	
		2022年	2 9 2	1 2 3	
		2023年	3 5 9	1 1 5	
		2024年	3 0 0	1 0 9	
	5 カ年平均		3 2 0	1 0 5	
	2025年見通し		3 0 0	1 1 0	
	概要	愛知、静岡、鹿児島、輸入が入荷する。コチョウランは中旬頃から入荷増え、カトレアも増加となる見込み。デンファレも増加傾向で特にアンナが増えてくる。オンシジウムは下位等級中心に増加する。シンピジウムはニュージーランド産が終盤となる。			
ばら	実績	2020年	6 6 2	8 0	
		2021年	6 8 0	8 0	
		2022年	7 1 6	9 8	
		2023年	6 9 8	9 4	
		2024年	6 7 8	8 7	
	5 カ年平均		6 8 7	8 8	
	2025年見通し		6 8 0	8 8	
	概要	愛知、岐阜、三重、山形、輸入が入荷する。夏の暑さのダメージが否めないが、中旬以降上位等級も出てくる。需要は秋のブライダルの色目になり、ハロウィン色などに引き合いが出てくる見込み。品種にもよるが、全体の入荷は例年並みが予想される。			
枝もの	実績	2020年	1, 1 9 8	5 6	
		2021年	1, 2 0 0	5 5	
		2022年	1, 2 9 0	6 4	
		2023年	1, 2 6 5	6 3	
		2024年	1, 2 2 7	7 4	
	5 カ年平均		1, 2 3 6	6 2	
	2025年見通し		1, 2 0 0	7 0	
	概要	紅葉シーズンに突入し、赤やオレンジ系の引き合いが強くなる。花木類はサンゴ水木、紅葉ヒペリカム、油ドウダンなどが始まり、草花類、女郎花、ミシマサイコ、ワレモコウなどは徐々に終了していく。高温、干ばつの影響は秋出し物にはあまりないが、冬出し物に影響が出る可能性もある。			

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ドラセナ類	実績	2020年	25,191	764	ドラセナ類の10ヶ月間の入荷量と単価の推移グラフ。数量は千鉢、単価は円/鉢。11月～10月のデータが示されています。数量は11月が約10千鉢、12月が約8千鉢、1月は約10千鉢、2月は約30千鉢、3月は約40千鉢、4月は約35千鉢、5月は約25千鉢、6月は約20千鉢、7月は約15千鉢、8月は約10千鉢、9月は約20千鉢、10月は約18千鉢です。単価は11月が約1000円、12月が約1200円、1月は約1500円、2月は約1000円、3月は約1200円、4月は約1000円、5月は約1200円、6月は約1000円、7月は約1200円、8月は約1500円、9月は約1000円、10月は約1200円です。
		2021年	18,028	1,123	
		2022年	20,223	1,069	
		2023年	19,023	905	
		2024年	18,175	912	
	5ヵ年平均		20,128	943	
	2025年見通し		18,000	900	
概要		入荷量は前年より減少か。種苗会社からの苗の供給があり出荷は前年より増えると思ったが、7号以上の海外原木での輸入減少が要因。 また、7号以上の入荷減予想の為、平均単価も減少の見込み。品目では、ユッカ・マッサンが主でコンシンネが多少増えてくる可能性の見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.3%）、2位鹿児島（12.4%）、3位三重（10.0%）であった。			
シヤコバサボ	実績	2020年	34,322	437	シヤコバサボの10ヶ月間の入荷量と単価の推移グラフ。数量は千鉢、単価は円/鉢。11月～10月のデータが示されています。数量は11月が約20千鉢、12月が約10千鉢、1月は約35千鉢、2月は約15千鉢、3月は約5千鉢、4月は約5千鉢、5月は約5千鉢、6月は約5千鉢、7月は約5千鉢、8月は約5千鉢、9月は約5千鉢、10月は約5千鉢です。単価は11月が約500円、12月が約500円、1月は約800円、2月は約400円、3月は約200円、4月は約200円、5月は約200円、6月は約200円、7月は約200円、8月は約600円、9月は約500円、10月は約500円です。
		2021年	32,956	449	
		2022年	30,773	485	
		2023年	25,679	448	
		2024年	22,511	478	
	5ヵ年平均		29,248	458	
	2025年見通し		21,000	476	
概要		入荷量は前年より減少か。猛暑の影響で出荷のスタートが10月からになる物が増えそうな状況。年々生産には過酷な気象状況となっている為、良質の商品については引き合いが強めになる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（56.6%）、2位埼玉（43.3%）、3位栃木（0.1%）であった。			
シクラメン	実績	2020年	549,026	186	シクラメンの10ヶ月間の入荷量と単価の推移グラフ。数量は千鉢、単価は円/鉢。11月～10月のデータが示されています。数量は11月が約600千鉢、12月が約400千鉢、1月は約100千鉢、2月は約100千鉢、3月は約100千鉢、4月は約600千鉢、5月は約100千鉢、6月は約100千鉢、7月は約100千鉢、8月は約100千鉢、9月は約100千鉢、10月は約400千鉢です。単価は11月が約400円、12月が約400円、1月は約200円、2月は約200円、3月は約200円、4月は約600円、5月は約200円、6月は約200円、7月は約200円、8月は約200円、9月は約200円、10月は約400円です。
		2021年	542,283	187	
		2022年	614,502	209	
		2023年	496,173	212	
		2024年	413,021	215	
	5ヵ年平均		523,001	201	
	2025年見通し		418,500	218	
概要		入荷量は前年並か。10月上旬までは3号ガーデンシクラメン主体の入荷となるが、中旬から下旬にかけて4号・5号の入荷が徐々に増え始める。残暑の影響で例年よりも出荷遅れがやや懸念されるが、相場は例年よりも比較的安定する見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（31.2%）、2位長野（13.9%）、3位群馬（11.6%）であった。			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
シンビジュウム	実績	2020年	2, 2 2 5	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	4, 9 6 8	
		2022年	3, 2 7 5	
		2023年	2, 6 7 1	
		2024年	1, 9 3 3	
	5ヵ年平均	3, 0 1 4	1, 5 5 9	
	2025年見通し	1, 5 0 0	1, 6 0 0	
	概要	入荷量は前年より大幅減少か。廃業や減産、転作に伴い生産量は減る見込み。 夏の高温の為、花飛び等の傷みが前年も出ており、残暑の影響を受ける10月は今年もかなり少ない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.4%）、2位三重（19.6%）、3位徳島（6.8%）であった。		
カラコエ	実績	2020年	2 6, 3 2 0	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	2 7, 9 5 0	
		2022年	2 6, 2 1 9	
		2023年	2 1, 0 4 2	
		2024年	1 7, 9 2 4	
	5ヵ年平均	2 3, 8 9 1	2 4 1	
	2025年見通し	1 7, 0 0 0	2 6 5	
	概要	入荷量は前年よりやや減少か。生産状況は暑さの影響もあり良品が減少傾向（ロス増加）。それに比例し市場も入荷減となる可能性。花鉢・ポット物どちらも八重が比較的高値となる。先月に続き、山上げ商品も始まり産地、荷主は移動しつつも出荷が切れることは少ない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（60.8%）、2位岐阜（28.7%）、3位愛知（6.2%）であった。		
パンジー	実績	2020年	5 1 4, 6 4 0	数量 千鉢 単価 円/鉢
		2021年	5 8 7, 2 7 8	
		2022年	5 2 0, 5 7 0	
		2023年	4 1 0, 0 3 9	
		2024年	4 0 7, 8 1 0	
	5ヵ年平均	4 8 8, 0 6 7	6 0	
	2025年見通し	4 0 0, 0 0 0	6 6	
	概要	入荷数量としては前年並かわずかに減少か。例年お盆明け以降も暑さが続き痛みが出やすいのと、暑さで需要がずれてきているのもあり播種を意図的に遅らせている傾向。下旬頃にならないと花付き商品は増えてこない見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（23.8%）、2位埼玉（15.3%）、3位奈良（14.0%）であった。		



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.628
2025年10月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434